

「生き生きと伝え合う姿」を目指して

大仙市立太田東小学校 教諭 黒川 美喜子

1 はじめに

前任校である東大曲小学校は、昨年度（H27年度）から、国際教養大学准教授・町田智久氏の「小学校英語教科化に向けたティーム・ティーチングを生かした教員研修モデルの開発」のための研究協力校となった。町田氏の研究は、小学校教員の基礎的な英語力養成と指導力向上を目指し、英語教育の専門性をもつ町田氏と6年生担任が1年間ティーム・ティーチングを継続的に実施し、その成果を生かして教員研修モデルを作成し、今後の教員研修に生かしていくというものである。

昨年度、6年生担任として町田氏とともに1年間ティーム・ティーチングを実施し、たくさんの指導方法や技術を学ぶことができた。4月からは、太田東小学校に転任し、5年生の担任となったが、昨年度のティーム・ティーチングで学んだことを生かし、今年度も指導に当たってきた。

2 昨年度の実践（H27年度）

○ティージャー・トーク（英語による指示）

オールイングリッシュの授業を毎回実践した。年度当初は、簡単な指示も英語でできなかったの、使用できる英語量を増やす努力をした。国際教養大学と秋田県教育委員会とで共同開発した英語指導表現集の付属CDを繰り返し聞き、反復練習することで、少しずつ使用できる英語を増やしていくことができた。

授業では、使えるようになった英語をできるだけ用い、子どもが理解しているか反応を確かめた。理解していないと感じたときは、もっと簡単な英語（単語）で言い換えるようにした。また、その時理解できなくても、繰り返し同じ表現を使って話していると、子どもたちは徐々に意味を理解できるようになるので、繰り返し使用するようにした。

子どもたちの英語を聞く力が向上してくると、自然に英語でのやりとりが可能になってくる。子どもたちへの一方的な指示にならないように、簡単な（Yes/Noで答えられるような）質問をしながら授業を進めていくようにした。

○歌と絵本の活用

昨年度、『Explore Our World』（2015, National Geographic Learning）というテキストを使用した。今後の英語教科化を見通して、英語の4技能を含み、コミュニケーション活動に適しているテキストである。そのテキストの各 Unit には、内容に関連する英語の歌（CD）と絵本が付いていた。

歌の歌詞には、その Unit で学習する target phrase や単語が入っているので、それを毎朝歌うことで、自然に口ずさめるようになった。そしてその歌を授業の初めに歌うことで、英語を学習しようとする気持ちが高まり、とても効果的だった。

授業の終わりには、必ず絵本の読み聞かせをした。また、同じ本を教室に数冊ずつ常備し、読書の時間に個人で読んだり、各グループで音読し合ったりする時間を設け、繰り返し絵本に親しませるようにした。

この他にも、書く活動を取り入れたり、留学生と交流する機会を設けたりするなど、小学校英語教科化に向けた取組をしながら、子どもたちは、楽しく力を付けていった。

年度当初は、オールイングリッシュでのティーム・ティーチングに戸惑っていた子どもが、年度末には「英語が好き・楽しい」と全員が答えるまでに変容した。自ら英語で生き生きとスピーチをし、それに対して英語で質問している子どもたちの姿が見られるようになった。また、家庭学習ノートにも自ら単語の練習をしたり、手紙を英語で書いたりする子どもが見られるまでになったのは嬉しいことであった。

3 今年度の実践（H28年度）

昨年度の子どもたちのような「生き生きと伝え合う姿」を目指して、今年度もティージャー・トークを継続している。歌や絵本も機会をとらえて活用するようにしている。そして、今年度は更に次の三つに重点をおいて指導に当たった。なお、テキストは『Hi, friends!1』を使用した。

○楽しく必要感のある場面設定

子どもたちが生き生きと伝え合うための手立てとして、単元のゴールや慣れ親しむためのゲームを子どもたちにとって楽しく必要感のもてるものに設定した。

・楽しく必要感のある単元のゴール

Lesson4 「I like apples.」

自分の好きなものや嫌いなものを Show&Tell で ALT に紹介した。

Lesson5 「What do you like?」

学校の児童会キャラクター「ヒーガとシーラ」のTシャツを様々な色や形を組み合わせて作った。Tシャツの模様を売るお店(WAKABA SHOP)を開き、そこでお客さんと店員になってやりとりした。

Lesson6 「What do you want?」

ヒーガとシーラのTシャツ作りが気に入った子どもたちから、「今度は自分たちのTシャツを作りたい」という声があがったので、Lesson6 では、アルファベットで自分のTシャツを作ることをゴールとした。Lesson5 同様、お店を開き、そこでアルファベットを売り買いするやりとりをした。 <資料1, 2>

・やりとりに必要感のあるゲーム

Lesson6 「What do you want?」

アルファベット作りゲーム

3人1組になり、二人がアルファベットを体で表現し、残りの1人がそれが何かを当てるゲームをした。

名前集めゲーム

自分のネームプレートを作るために、友だちからアルファベットのシールを集めた。そのネームプレートは、外国語活動の時間に使用している。

○慣れ親しませるための取組

新しく学習した表現を授業の中で慣れ親しませることはもちろんであるが、既習表現も時間がたつと忘れてしまうので、繰り返し慣れ親しませるようにした。

・Review

既習表現をできるだけ授業の中で使うよう心がけた。導入前の帯単元として、単語や表現を復習する時間を必ずもち、その中で既習表現である"How many ~?" "Do you like ~?" "What ~ do you like?" などと子どもに尋ねた。それらの表現に慣れ親しませることで、子どもたちもその表現が使えるようになることを期待した。

・詩の暗唱

太田東小学校では、数年前から全校で詩の暗唱に取り組んでいる。各学年で、毎月暗唱する詩を決め、練習をし、暗唱したら合格シールをもらうことができる。9月、10月は、"What color do you like?" "What do you want?" 等の Target phrase と既習表現を入れた詩を作成し、それを暗唱させた。朝の会でも全員で暗唱しながら表現に慣れ親しませるようにした。 <資料3>

○伝え合う喜びを感じさせる工夫

・Repeat, Gesture, Smooth English

授業では、毎時間 Clear voice, Eye contact, Nice smile を意識させるようになってきた。Lesson6以降は、さらに Repeat, Gesture, Smooth English も意識させながらやりとりできるよう声をかけてきた。相手の言ったことを繰り返していたり、笑顔でジェスチャーをしていたり、なめらかな英語で話している子どもを大いに称賛し、みんなに紹介する機会もできるだけ設けるようにした。

・Reflection

振り返りの際、めあてに対する振り返りの他に、友だちの良かったところも記入できるような「ふりかえりカード」を使用し、毎時間それを紹介させるようにした。 <資料4>

4 成果と課題

11月下旬の学習アンケートでは、全員が「外国語は楽しい」と回答した。今年度の取り組みの大きな成果であると感じている。

楽しく必要感のある場面を設定することで、子どもたちは意欲的に活動に取り組むことができた。Lesson5 のヒーガとシーラのTシャツを作る活動では、授業後、子どもたち自らがお店を開き、英語で生き生きとやりとりしている姿が見られ、嬉しい限りであった。生き生きとしたやりとりは、相手に伝えるための表現に十分慣れ親しんでいたからこそできたものと思う。慣れ親しませることの大切さを実感した。子どもたちのふりかえりカードには、「〇〇さんが、ジェスチャーをしながら分かりやすく話してくれた。」「友だちと上手くコミュニケーションがとれた。」などのような感想を書く子どもが多くなってきた。伝え合う喜びを少しずつ感じられるようになってきている。

Repeat, Gesture, Smooth English については、恥ずかしさからまだ抵抗感をもっていている子どももいるので、引き続き、抵抗感無くできるような手立てを考えていきたい。

(参考) 第5学年 外国語活動学習指導案 (抜粋)

1. 単元名 Tシャツをつくろう2 ～What do you want?～ (Hi, friends!1 Lesson6)

2. 単元の目標

- (1) 積極的にアルファベットの大文字を読んだり、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) アルファベットの文字とその読み方とを一致させ、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【外国語への慣れ親しみ】
- (3) 身の回りにアルファベットの大文字で表現されているものがあることに気付く。 【言語・文化に関する気付き】

3. 単元の指導計画 (5時間)

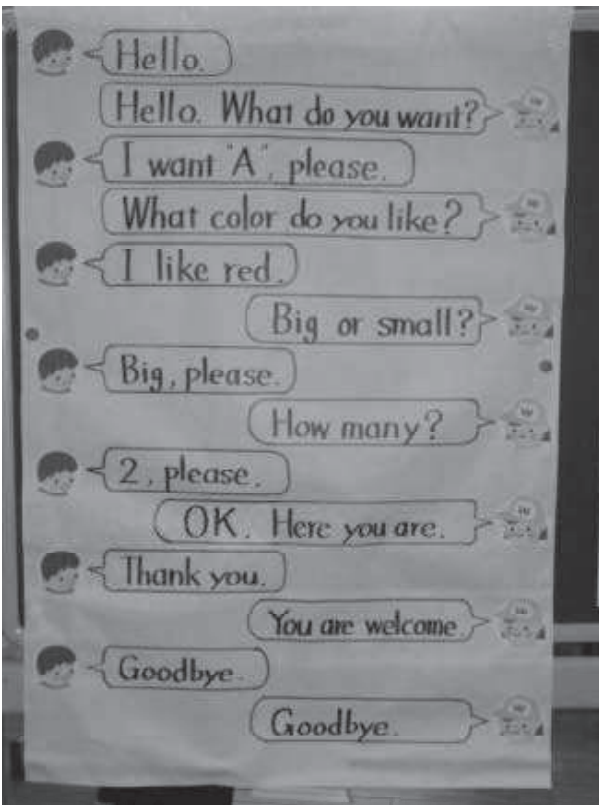
- (1) アルファベットを見つけよう (2) アルファベットで遊ぼう
- (3) ほしいものをたずねよう (4) 自分の名前を集めよう
- (5) Tシャツショップを開こう (本時)

4. 本時の計画 (5/5)

- (1) ねらい Tシャツに必要なアルファベットの大文字を、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 学習過程

学習活動	指導上の留意点 ◎つまずきと手立て ※評価
1 Greeting	・元気にあいさつし、楽しく始まる雰囲気を作る。
2 Review	・アルファベットカードを見せ、テンポよく行う。 ・"How many~?" "What color?"等の質問も付け加える。
3 Chant	・音声教材を聞かせ、デジタル教材を指し示しながら一緒に声を出す。
4 Today's goal	ほしいアルファベットの文字をすすんでたずねたり答えたりしよう。 Target phrase "What do you want?" "I want~, please."
5 Activity お店やさん(WAKABASHOP)を開き、店員とお客さんになってやりとりをする。時間で役割を交代する。	・T2とデモンストレーションを行う ・活動に入る前に、全体での会話の練習をする。 ◎言い方を忘れていた児童には、友だちに教えてもらってもよいことを伝える。 ・店員役の児童には、Target phrase をなめらかに使った時やリピート、ジェスチャーをした時、大いに誉める。 ◎早くできた児童には、2枚目のTシャツを作るよう伝える。 ・役割を交代する前に、進んで活動していた児童を紹介する。 ※お店やさんでのやりとりを通して、自ら欲しいアルファベットの大文字を尋ねたり答えたりしている。 【行動観察】
6 Reflection	・みんなのTシャツを見合い、頑張りを大いに称賛する。 ・Today's goalを確認してから振り返りをするよう声をかける。
7 Greeting	・明るく終わることができるような雰囲気作りをする。

<資料1 やりとりで使用したphrase>



<資料2 完成したTシャツ >




<資料4 ふりかえりカード>


<資料3 今月の詩>


9月の詩

What do you like?


Do you like fruits?
Yes, I do. I like fruits. 

What fruit do you like?
I like apples.

Do you like animals?
Yes, I do. I like animals. 

What animal do you like?
I like dogs. 

Do you like sports?
Yes, I do. I like sports.

What sport do you like?
I like baseball. 

5年 外国語活動 ふりかえりカード

Lesson 5

What do you like? Name Chihito

月日	めあて Today's Goal	ふりかえり (◎よくできた ○できた △もう少し) ◇感想・気づき ☆友だちの良かったところ
1 9/6	色や形の表現を知り、日本語と比べよう。	①相手の言うことをしっかり聞こうとした ○ ②相手に伝わるように話そうとした ○ ③すすんで人と関わることができた ◎ ◇色や形の表現を知ることができました。オシジヤビコクハ-七は日本語に似ていたみたい。と見ると似た感じでした。good ☆明里さんが かるたで、色や形の表現をよく聞いていました。
2 9/13	色や形の表現をマスターしよう。	①相手の言うことをしっかり聞こうとした ◎ ②相手に伝わるように話そうとした ◎ ③すすんで人と関わることができた ◎ ◇色や形の表現をマスターできました。これからはいろいろな人に好きな色や形を聞きたいです。good ☆萌岡さんが相手にわかりやすく話していた。春花さんの発音が良くなった。
3 9/14	好きな色や形をたずねたり答えたりする表現を使って話そう。	①相手の言うことをしっかり聞こうとした ◎ ②相手に伝わるように話そうとした ○ ③すすんで人と関わることができた ◎ ◇好きな色や形をたずねたり答えたりする表現を使い、話せました。友達と上手にコミュニケーションをとりました。very good ☆春花さんと彩更さんが質問をしてくれたり答えたりしてくれました。
4 9/21	すすんで好きなものをたずねたり答えたりしよう。	①相手の言うことをしっかり聞こうとした ◎ ②相手に伝わるように話そうとした ◎ ③すすんで人と関わることができた ◎ ◇すすんで好きなものをたずねたり答えたりできました。色、形、大きさ、数を上手に話すと聞いてくれたです。Tシャツも早く出来たので。☆ 凜花さんが、相手の目を見て話していましたが、とても伝わりやすかったです。very good